

広域議会との問題意識の共有を

秋田 茂議員

○合併後5年を経過して、広域事務組合運営の問題と都市計画の線引きについて

ただでなく、誰でも傍聴が可能のため、広域事業の動向を知ることができる。

質問 ①広域事務組合運営については予算や事業について決定事項を一方的に示される場合が多い。しかし市の議会では何か問題になった場合に改めて問題提起される。多額の負担金を支出している執行部も含め、事業の詳細や問題点を検討し、問題意識を共有するための説明・報告を行うべきと思うがどうか。②都市計画の線引き問題(都市計画税)については、合併時に

また、広域事業の中で大規模な負担が生じたり市民生活に影響を及ぼす事業は、議員全員協議会で執行部から報告を行っている。なお、取手市、守谷市、つくばみらい市の3市は、議員全員協議会や議会定例会の初日に、組合議員から組合議会の内容に関する報告を行う場を設けているとのこと。このことにより、議員間の一部事務組合の事業に関する理解や情報の共有を深めるとともに、一部事務組合に関する議論の活性化を図っていると聞く。

当分の間ということ、北海道地区と石下地区とで異なった対応となっている。都市計画税のあり方を含め、今後の方向性を尋ねる。

常総市の都市計画税の調整方針については、合併協定書の中で「石下地区の都市計画税については当分の間現行のとおりとする」と明記され、あり方については、様々な問題が関連するので、市としても、慎重かつ十分な議論をしていかなければならないが、現時点

答弁(企画部長) 当市は、5つの一部事務組合に加入しており、常総市議会でも選出された市議会議員の方々が数名ずつ、組合議員として各組合議会に出席。

これら一部事務組合議会の内容は、組合議会関係者

では現行どおり進める方向である。

(再質問) 守谷に建設中のゴミ処理施設は取手市議会等が反対の意見書提出。代表者を広域議会に出して議決されたものを市議会が反対意見書を出すというのは合意形成のあり方に問題があるのではないか。長期計画やその方向性について職員サイドではどうかかわってきたのか。

(再答弁) (企画部長) 地元クリーン守谷協議会が基本的にあそこに建てさせないところからスタートしており、職員レベルではかかわれなかったのが事実である。

(市長) この2年の間は管理者会にも事務担当が出席し、議会も傍聴している。他の3市のいいところをとって、今後考えていく。

〈その他の質問事項〉

○高度情報化の時代を担う人材の育成と、平成21年度に採用された人事制度の評価について。

○自治区の合併問題について。

環境を守るために

中村安雄議員

○坂手畜産団地内のハエと悪臭対策の成果と今後の対応について

防止剤の散布を実施していなかった人的要因による。ハエ発生後の対策については、毎日市担当職員が現地調査に出向き、成虫駆除剤散布や羽化防止剤散布等に直接立会いするなど改善指導を実施。6月10日頃にはハエが減少し、その後は大量発生が抑えられている状況である。

質問 平成9年に地域の広範囲にわたってハエが大発生。工業団地やゴルフ場、学校等が当時大混乱となった。その後も数回にわたり、ハエ問題は解決することなく延々と続いている。本年6月のハエの発生に対する指導の徹底により、大発生を防いだことは多大な功績である。協議会として住民と共に感謝したい。秋に向かって発生するため、事前指導で飼育数、鶏糞処理、消毒等についても計画書の提出等により、指導の徹底をはかることが必要と思うが、どのように考えているか。

現在も、週に2回程、現地調査によるハエの発生状況の確認、防除作業の実施確認、防除日報を提出させることなどを実施して監視を続けている。また、6月26日に開催された「常総市ハエと悪臭問題対策坂手協議会」において、抜本的な改善対策を求める決議がなされ、地元の方々と、市の間で再発防止にむけた監視・指導を続けることをあらためて確認した。

答弁(産業労働部長) 今年6月3日に、坂手町の某養鶏場を発生源としたハエが大量発生。ここは現在約18万羽の鶏が飼養され、鶏糞の処理施設は25万羽分の処理能力があるとされているが大量発生は、定期的な羽化

市としては、秋以降のハエが発生する時期に備え、地域住民と連絡を取りながら、監視・指導を徹底していく。

大量発生は、定期的な羽化

市としては、秋以降のハエが発生する時期に備え、地域住民と連絡を取りながら、監視・指導を徹底していく。